

宮崎市定先生の略歴と著作目録*

略 歴

- 明治 34 年 8 月 長野県飯山市に生まれる（8月4日）
- 大正 8 年 3 月 長野県立飯山中学校卒業
- 〃 11 年 3 月 松本高等学校文科甲類卒業
- 〃 14 年 3 月 京都帝国大学文学部史学科卒業
- 〃 〃 〃 京都帝国大学文学部副手を嘱託せられる
- 昭和 2 年 3 月 第六高等学校講師を嘱託せられる
- 〃 〃 5 月 第六高等学校教授に任じられる
- 〃 4 年 4 月 第三高等学校教授に任じられる
- 〃 8 年 8 月 中華民国および満州国に出張（同年9月帰朝）
- 〃 9 年 3 月 京都帝国大学文学部講師を嘱託せられる
- 〃 〃 12 月 京都帝国大学助教授に任じられる
- 〃 10 年 10 月 仏蘭西国に留学滞在を命じられ、東洋語学校でアラビア語を学ぶ
- 〃 11 年 6 月 亜米利加合衆国および中華民国を在留国に追加される
- 〃 12 年 9 月 万国人類・先史考古学大会（ブカレスト）に出席、トルコ、イラク、シリア、エジプトを歴訪（13年8月帰朝）
- 〃 16 年 3 月 東洋史学第二講座分担を命じられる
- 〃 17 年 7 月 東洋史学第二講座担任を命じられる
- 〃 19 年 5 月 京都帝国大学教授に任じられる
- 〃 21 年 7 月 京都帝国大学評議員を命じられる（23年7月まで）
- 〃 22 年 4 月 学位請求論文「五代末初の通貨問題」によって文学博士の学位を授与される
- 〃 25 年 4 月 京都大学文学部長代理を命じられる（同年7月まで）

* 漢字はできるだけ当用漢字に改めた。

- 昭和 25 年 9 月 京都大学文学部長に補任される (26年9月まで)
- 〃 〃 〃 京都大学教育学部長事務取扱を命じられる (26年4月まで)
- 〃 31 年 7 月 京都大学分校教授に併任される
- 〃 33 年 5 月 「九品官人法の研究」により日本学士院賞を授与される
- 〃 34 年 4 月 京都大学人文科学研究所教授に併任される
- 〃 〃 11 月 京都大学分校主事に併任される (35年10月まで)
- 〃 〃 〃 京都大学評議員に併任される (35年10月まで)
- 〃 〃 〃 京都大学教養部長を命じられる (35年10月まで)
- 〃 35 年 4 月 京都大学人文科学研究所教授に併任される (36年10月まで)
- 〃 〃 7 月 第 25 回国際東洋学会議 (モスクワ), 国際歴史学会 (ストックホルム) に出席 (同年9月帰朝)
- 〃 35 年 10 月 パリ大学客員教授として渡仏, コレージュ・ド・フランスで講演 (36年6月帰国)
- 〃 36 年 10 月 ハーバート大学客員教授として渡米 (37年7月帰国)
- 〃 38 年 4 月 京都大学人文科学研究所教授に併任される
- 〃 〃 〃 38 年度京都大学大学院文学研究科担当を命じられる
- 〃 39 年 4 月 39 年度京都大学大学院文学研究科担当を命じられる
- 〃 40 年 3 月 京都大学文学部を停年退官
- 〃 〃 4 月 京都大学名誉教授の称号を授与される

著 書

- 東洋における素朴主義の民族と文明主義の社会——支那歴史地理叢書—— (富山房) 昭和15年
- 五代宋初の通貨問題 (星野書店) // 18年
- 日出づる国と日暮るる処 (星野書店) // //
- 菩薩蛮記 (生活社) // 19年
- 科 挙 (秋田屋) // 21年
- アジア史概説 正編・続編 (人文書林) // 22~23年
- 東洋的 近世 (教育タイムス社) // 25年
- 雍正帝——中国の独裁君主—— (岩波書店) // 25年
- 中国古代史概説 (ハーバード・燕京・同志社東方文化講座第8輯) // 30年
- 九品官人法の研究——科挙前史—— (東洋史研究会) // 31年
- アジア史研究 第一 (東洋史研究会) // 32年
- 東洋史上の日本——日本文化研究1—— (新潮社) // 33年
- アジア史研究 第二 (東洋史研究会) // 34年
- 宋と元 (『世界の歴史』6) (中央公論社) // 36年
- アジア史研究 第三 (東洋史研究会) // 38年
- 科挙——中国の試験地獄—— (中央公論社) // 38年
- Wang An-Shih Practical Reformer? Boston, 1963.
- アジア史研究 第四 (東洋史研究会) // 39年

論 文

- 西洋に於ける東洋の影響(特に中古期に於ける) 『史林』 11/1, 2, 3 大正15年
- 鄂州之役前後 『内藤博士頌寿記念史学論叢』 昭和5年
- 王安石の吏士合一策——倉法を中心として『桑原博士選暦記念東洋史論叢』 // 5年
- 宋代の太学生生活 『史林』 16/1, 4 // 6年
(宋代太学生の救国運動 黄現璠訳 民国25年参照)
- 古代中国賦税制度 『史林』 18/2, 3, 4 // 8年
(中国古代賦税制度 『清華週刊』 41/1, 2期 草心訳参照)

| | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|----------|
| 中国城郭の起原異説 | 『歴史と地理』 32/3 | 昭和 8 年 |
| 西夏の興起と青白塩問題 | 『東亜経済研究』 18/2 | 〃 9 年 |
| 水経注二題 | 『史学雑誌』 45/7 | 〃 9 年 |
| 游侠に就て | 『歴史と地理』 34/4, 5 | 〃 9 年 |
| 宋元の経済的状态 | 『世界文化史大系』 第12巻「宋・元時代」 | 〃 10 年 |
| 宋と遼・西夏との関係 | 『世界文化史大系』 第12巻「宋・元時代」 | 〃 10 年 |
| 北宋の党争 | 『世界文化史大系』 第12巻「宋・元時代」 | 〃 10 年 |
| 晋武帝の戸調式に就て | 『東亜経済研究』 19/4 | 〃 10 年 |
| | (『史学消息』 1/5 沈兆麟抄訳 民国26年参照) | |
| 説史劄記 | 『史 林』 21/1 | 〃 11 年 |
| 東洋史上に於ける孔子の位置 | 『東洋史研究』 4/2 | 〃 13 年 |
| | (孔子在東亜史上的地位 「北京近代科学図書館館刊」 6, 蘇民生訳参照) | |
| 条支と大秦と西海 | 『史 林』 24/1 | 〃 14 年 |
| 東洋のルネッサンスと西洋のルネッサンス | 『史 林』 25/4, 26/1 | 昭和15~16年 |
| 羨不足論 | 『史学雑誌』 51/1 | 昭和 15 年 |
| 書禁と禁書——支那の軍機保護法と治安維持法—— | | |
| | 『東 亜 問 題』 2/1 | 〃 15 年 |
| 賈の起源に就いて | 『東洋史研究』 5/4 | 〃 15 年 |
| 毘沙門天信仰の東漸に就いて | 『紀元二千六百年記念史学論文集』 | 〃 15 年 |
| 事変と塩・歴史と塩 | 『東 亜 問 題』 3/7 | 〃 16 年 |
| 支那・上古——兩漢 (社会経済史学の発達 第2部 東洋社会経済史) | | |
| | 『社会経済史学』 10/11 | 〃 16 年 |
| 南宋政治史 | 『支那政治史』 下巻 | 〃 16 年 |
| 清初広東貿易に関する一資料 (訳) | 『東亜経済研究』 25/6 | 〃 16 年 |
| 賈似道略伝——支起古今人物略伝—— | 『東洋史研究』 6/13 | 〃 16 年 |
| 南京条約直後の支那対外貿易統計 (訳) | 『東洋史研究』 6/6 | 〃 17 年 |
| 南洋を東西洋に分つ根拠に就いて | 『東洋史研究』 7/14 | 〃 17 年 |
| 王安石の黄河治水策 | 『東 亜 問 題』 4/1 | 〃 17 年 |
| 漢末の風俗 | 『日本諸学振興委員会研究報告』 特輯 4 | 〃 17 年 |
| 真如法親王の御逸事 | 『ひ の も と』 6/3 | 〃 18 年 |
| 長恨歌二題 | 『ひ の も と』 6/5 | 〃 18 年 |
| 支那側資料より見たる英仏聯合軍の北京侵入事件 | | |
| | 『東亜研究所報』 24 | 〃 18 年 |

| | | |
|--|-----------------|-------|
| 東西洋と南洋 | 『南方講座』 | 昭和18年 |
| 支那周辺史・総論 | 『支那周辺史』 上巻 | 18年 |
| トルキスタン史・近古 | 『支那周辺史』 下巻 | 18年 |
| 印度支那及び南洋 | 『支那周辺史』 | 18年 |
| 支那南洋関係史 | 『太平洋圏・民族と文化』 上巻 | 19年 |
| 宋の太祖被弑説について | 『東洋史研究』 9/4 | 20年 |
| 胥吏の陪備を中心として——中国官吏生活の一面 | 『史 林』 30/1 | 20年 |
| 王安石 | 『中華六十名家言行録』 | 21年 |
| 永翁の陶 | 『洛 味』 5 | 21年 |
| 中国史学入門・総論 | (東方学術協会) | 22年 |
| 清 談 | 『史 林』 31/1 | 22年 |
| 章学誠の文章論 | 『学 海』 4/1 | 22年 |
| 食糧から見た東洋史 | 『国民の歴史』 1/6 | 22年 |
| 四角・六角・八角 | 『随 筆』 2/4, 5 | 22年 |
| 帖木児王朝の遣明使節 | 『学 芸』 4/6 | 22年 |
| 清朝に於ける国語問題の一面 | 『東方史論叢』 1 | 22年 |
| 五嶽真形觀 | 『学 海』 4/4 | 22年 |
| 中国近世の農民暴動 | 『東洋史研究』 10/1 | 22年 |
| 十八世紀フランス絵画と東亜の影響 | 『サ ン ス』 2 | 22年 |
| 宋学の論理 | 『東 光』 3 | 23年 |
| 木米の硯 | 『学 芸』 5/1 | 23年 |
| 歴史家としての狩野博士 | 『東 光』 5 | 23年 |
| 歴史的評価の客観性 | 『智 慧』 8 | 23年 |
| 五代史上の軍閥資本——特に晋陽李氏の場合 | 『人文科学』 2/4 | 23年 |
| 本を語る——中国学の立場から | 『時 論』 4/10 | 24年 |
| 中国上代は封建制か都市国家か | 『史 林』 33/2 | 25年 |
| 五代宋初の通貨問題 | 『研究論文集抄録誌』 | 25年 |
| (宋初銅銭之研究「中聯銀行月刊」7, 趙之藹訳 民国33年参照) | | |
| 中国近世における生業資本の貸借について | 『東洋史研究』 11/1 | 25年 |
| On the Chinese Currency between 907 A. D. and 1063 A. D. | 『研究論文集』 I | 25年 |
| 文学哲学史学会連合 | | |

| | | | |
|----------------------------------|---------------------|--|---------|
| 狼牙脩国と狼牙須国 | 『羽田博士頌寿記念東洋史論叢』 | | 昭和 25 年 |
| 明清時代の蘇州と蠶工業の発達 | 『東 方 学』 2 | | 〃 26 年 |
| 古本屋への注文 | 『京都古書時報』 23 | | 〃 26 年 |
| 招商局の略史——中国の独占的汽船会社 | 『東洋史研究』 11/2 | | 〃 26 年 |
| 大地は生きている——中国人の地理思想 | 『人 文 地 理』 3/5 | | 〃 27 年 |
| 水位の変化と中国史——特に華北における原始景観の破壊に関して | 『自然と文化』 3 | | 〃 27 年 |
| 宋代文化の一面 | 『墨 美』 10 | | 〃 27 年 |
| 周漢文化の基盤 | 『墨 美』 11 | | 〃 27 年 |
| 宋代以後の土地所有形体 | 『東洋史研究』 12/2 | | 〃 27 年 |
| 四書考証学 | 『東西学術研究所論叢』 6 | | 〃 27 年 |
| 京大東洋史・総論 | (『古代帝国の成立』所収) (創元社) | | 〃 27 年 |
| 京大東洋史・西力の東漸 | (『東亜の近代化』所収) (〃) | | 〃 27 年 |
| 宋代の士風 | 『史学雑誌』 62/2 | | 〃 28 年 |
| 水滸伝的傷痕 | 『東 方 学』 6 | | 〃 28 年 |
| 宋代州県制度の由来とその特色——特に衙前の変遷について | 『史 林』 36/2 | | 〃 28 年 |
| 中国に於ける奢侈の変遷 | 『あまから』 | | 〃 28 年 |
| 中国史上の荘園 | 『歴 史 教 育』 2/6 | | 〃 29 年 |
| 明代蘇松地方の士大夫と民衆——明代史素描の試み | 『史 林』 37/3 | | 〃 29 年 |
| 宋元時代の法制と裁判機構——元典章成立の時代的・社会的背景 | 『東 方 学 報』 24 | | 〃 29 年 |
| 合本組織の発達——中国近世における生業資本の貸借について(補遺) | 『東洋史研究』 13/5 | | 〃 30 年 |
| 中国の官吏登用法 | 『歴 史 教 育』 3/9 | | 〃 30 年 |
| 羽田博士と西域史 | 『東 方 学』 11 | | 〃 30 年 |
| 蘇州風流史話 | 『洛 味』 50 | | 〃 30 年 |
| 唐代賦税制度新考 | 『東洋史研究』 14/4 | | 〃 31 年 |
| オリエント・過去と現在 | 『経 済 人』 10/5 | | 〃 31 年 |
| 西アジア文化の古さ | 『西南アジア研究』 1/1 | | 〃 32 年 |
| 妙心寺麟祥院蔵の混一歴代国都疆理地図について | 『神田博士還暦記念書誌学論集』 | | 〃 32 年 |

| | | |
|--|---------------------------------|---------|
| 雍正硃批諭旨解題——その史料的价值 | 『東洋史研究』 15/4 | 昭和 32 年 |
| 清代の胥吏と幕布——特に雍正朝を中心として—— | | |
| | 『東洋史研究』 16/4 | // 33 年 |
| 有史以前の文化交流 | 『古代文化』 | // 33 年 |
| 隋代史雑考 | 『史学研究』 72 | // 34 年 |
| 支那の鉄について | 『史林』 40/6 | // 34 年 |
| 日本の官位令と唐の官品令 | 『東方学』 18 | // 34 年 |
| 序章, 三国志の時代, 南朝と北朝, 商業の発展, 儒学の革新 (『図説世界文化史大系』 16, 「中国」Ⅱ所収) | | // 34 年 |
| 三韓時代の位階制について | 『朝鮮学報』 14 | // 34 年 |
| 雍正時代地方政治の実状——硃批諭旨と鹿州公案—— | | |
| | 『東洋史研究』 18/3 | // 34 年 |
| 馮道と汪兆銘 | 『東亜時論』 2/2 | // 35 年 |
| 中国人の海外進出 (『図説世界文化史大系』 18, 「中国」Ⅳ所収) | | // 35 年 |
| 中国における村制の成立——古代帝国崩壊の一面—— | | |
| | 『東洋史研究』 18/4 | // 35 年 |
| 中国火葬考 | 『塚本博士頌寿記念仏教学論集』 | // 36 年 |
| Les villes en Chine à l'époque des Han | <i>To'ung Pao</i> 48/4, 5, 1961 | |
| 六朝時代華北の都市 | 『東洋史研究』 20/2 | // 36 年 |
| 戦国時代の都市 | 『東方学会創立十五周年記念東方学論叢』 | // 37 年 |
| アメリカにおける中国研究瞥見 | 『史林』 45/6 | // 37 年 |
| 漢代の里制と唐代の坊制 | 『東洋史研究』 21/3 | // 37 年 |
| 中国古代における天と命と天命の思想——孔子から孟子に至る革命思想の発展 | | |
| | 『史林』 46/1 | // 38 年 |
| 陸賈新語道基編の研究 | 『東方学』 25 | // 38 年 |
| 雍正帝による俸工銀扣捐の停止について | 『東洋史研究』 22/3 | // 38 年 |
| 有福読書堂叢刻 | 『岩井博士古稀記念典籍論集』 | // 38 年 |
| 宣祖時代の科挙恩榮宴図について | 『朝鮮学報』 29 | // 38 年 |
| 六朝時代江南の貴族 | 『歴史教育』 11/7 | // 38 年 |
| 宋代官制序説——宋史職官志をいかに読むべきか (宋史職官志索引序) | | // 38 年 |
| 佐久間象山 | 『信濃教育』 935 | // 39 年 |
| 公孫竜子の研究 | 『東方学報』 36 | // 39 年 |

| | | |
|-----------------------------------|------------------------------|-------|
| 六朝隋唐の社会 | 『歴史教育』 | 昭和39年 |
| 頃畝と里と丈尺 | 『東方学』28 | ” 39年 |
| 陸賈「新語」の研究 | 『京都大学文学部研究紀要』9 | ” 40年 |
| The Nature of Tai-Ping Rebellion | <i>Acta Asiatica</i> 8, 1965 | |
| 元朝治下の蒙古的官職をめぐる蒙漢関係——科挙復興の意義の再検討—— | 『東洋史研究』23/4 | ” 40年 |

書 評

| | | |
|-------------------------|--------------|-------|
| 那波利貞：燕吳載筆 | 『史林』10/4 | 大正14年 |
| 田中萃一郎：史学論文集 | 『史林』17/4 | 昭和7年 |
| 岡崎文夫：魏晉南北朝通史 | 『史林』18/1 | ” 8年 |
| 青山定男：読史方輿紀要索引・支那歴代地名要覧 | 『史林』18/3 | ” 8年 |
| 東川徳治：増訂支那法制大辞典 | 『史林』” | ” 8年 |
| 市村博士古稀記念東洋史論叢 | 『史林』19/1 | ” 9年 |
| 矢野仁一：国民東洋史大綱・満州国歴史 | 『史林』” | ” 9年 |
| 伊勢専一郎：自顧愷之至荆浩支那山水画史 | 『史林』19/3 | ” 9年 |
| 鈴木隆一：国語索引 | 『史林』” | ” 9年 |
| 曾我部静雄：宋代財政史 | 『史林』27/1 | ” 17年 |
| 傳芸子：正倉院考古記 | 『史林』27/2 | ” 17年 |
| 仁井田陞：支那身分法史 | 『東洋史研究』7/2・3 | ” 17年 |
| 山田憲太郎：東亜香料史 | 『史林』27/4 | ” 17年 |
| 内藤虎次郎：支那上古史 | 『東洋史研究』9/3 | ” 20年 |
| 内藤虎次郎：清朝史通論 | 『東洋史研究』” | ” 20年 |
| 津田左右吉：論語と孔子の思想 | 『東洋史研究』10/1 | ” 22年 |
| 内藤虎次郎：中国中古の文化 | 『東洋史研究』10/2 | ” 23年 |
| 内藤虎次郎：中国近世史 | 『東洋史研究』” | ” 23年 |
| 狩野直喜・「中国哲学史」を読む | 『東洋史研究』13/4 | ” 29年 |
| 鈴木俊・西嶋定生：中国史の時代区分 | 『歴史学研究』214 | ” 32年 |
| トルファン発見田土文書の性質について | | |
| ——「敦煌吐魯番社会経済史料」(上)を読む—— | 『史林』43/3 | ” 35年 |

仁井田 隆 著：「中国法制史研究」書評『朝日ジャーナル』 11・25 昭和 35 年
 吉川 幸次郎：宋 詩 概 説 『東洋史研究』 22/1 // 38 年

雑 録

| | | |
|---------------------|--------------|---------|
| バグダット旅信 | 『東洋史研究』 3/3 | // 13 年 |
| 四家を隣と為す | 『東洋史研究』 11/1 | // 25 年 |
| 突厥の字音について | 『東洋史研究』 11/2 | // 27 年 |
| フランスの宋江 | 『東 方 学』 6 | // 28 年 |
| 羽田 博士を悼む | 『東洋史研究』 14/3 | // 30 年 |
| 羽田先生の追憶 | 『東洋史研究』 // | // 30 年 |
| 象 の 後 退 | 『東洋史研究』 15/4 | // 32 年 |
| 雍正二年の緡紳・中樞全書 | 『東洋史研究』 16/4 | // 33 年 |
| 「唐宋時代に於ける金銀の研究」疑義二則 | 『東洋史研究』 18/2 | // 34 年 |
| 王建の詩再論 | 『東洋史研究』 18/3 | // 34 年 |
| 可汗の字音について | 『東洋史研究』 22/3 | // 38 年 |

事典（辞典）執筆項目

『アジア歴史事典』（平凡社）——アジア・安部健夫・尉・位従公・尹・員外郎・蔭叙・禹・羽林
 衛・衛尉・永巷令・衛將軍・易姓革命・掖庭令・掾・王弘・恩縣・夏・階官・外官・開國爵・外
 制・廻避・開府・開府儀同三司・客省使・假節・何武・官・漢（蜀漢）・監・關外侯・諫官・宦
 官・諫議大夫・監察御史・館職・監生・閤内侯・起家・記室・宮觀・九卿・給事中・九品官人法
 ・九品官制・鄉侯・御史大夫・寄祿・金紫光祿大夫・虞候・勳位・勳官・軍器監・軍師・勳品・
 啓・羿・經筵官・計偕・京官・卿大夫・京兆尹・京朝官・刑部・桀・檢院・檢校・儻人餐錢・憲
 台通紀・元典章・元典章校補・考課・考功郎中・行人司・高祖・叩頭・工部・弘文館・黃門郎・
 公用錢・校理・光祿勳・光祿大夫・國史館・五省・戸部・宰執・宰相・採訪・処置使・差役・差
 遣・雜將軍・雜職・三衙・三館・散騎省・三介公・三司・三師・三省・三臺・參知政事・三都
 尉・散府・三法司・四科・史館・試官・諮議參軍・侍御史・侍講・旨授・使相・使臣・四征將軍
 ・士大夫・侍中・司直・四鎮將軍・十緊・執政・司徒・司馬・視品・拾遺・從事中郎・修撰・
 修内司・十二衛・十望・主事・主書・首相・出身・硃批諭旨・主簿・循資格・上供・將軍・上公
 ・常參官・省試・上駟院・貼職・尚方令・上諭内閣・助教・職掌・職田・諸署令長・胥吏・司

吏・帥司・隨身衣糧・崇政院・崇政殿詔書・樞密院・樞密使・正員郎・政事堂・清吏司・石炭
（中国石炭の歴史）・撰官・曹・太尉・大医院・台諫・大鴻臚・大司農・太常・大將軍・太祖・
太宗・大長秋・太僕・儲才之地・提控案牘・丁憂守制・都省・都總管・都大・內宮・二府・廢
帝・幕友・班・鳳閣・防禦使・奉朝請・補闕・命婦

『世界歴史大事典』（平凡社）——司馬光・内藤湖南

『経済学辞典』（大阪商科大学経済研究所編）——鹽鐵論・王安石・管子の經濟思想・均輸平準法
・市易法・青苗法・丁賦・田賦・保甲保馬法・李愷